

# 平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における 豊新小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- （１） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （３） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・豊新小学校では、6 年生 59 名

## 3 調査内容

### （１）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など</li></ul>

### （２）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

## 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

豊新小学校

児童数

59

### 平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	51.6	36.6	67.4	43.2
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

### 平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	19.8	21.1	4.4	12.5
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

### 結果の概要

国語、算数それぞれ、A問題・B問題ともに、大阪市および全国平均より低い結果となった。特に「活用」に関するB問題の正答率が低かった。学習の理解や技能を要する基礎的・基本的な内容も、思考力を必要とする応用的な内容とともに定着が十分でないことがわかる。無回答率についても、大阪市や全国と比べて高く、時間的不足、質問内容が理解できず解答できなかったと予想され、最後まであきらめず解答しようとする意識が薄い傾向にある。しかしながら、国語、算数ともに「勉強が好き」などの学習意欲は正答率よりも高い。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

基礎的・基本的な力を身につけることを中心に、個に応じたきめ細やかな指導や漢字の書き取り、計算ドリルなどの反復学習に取り組んでいる。  
また、地域絵本サークルによる朝の「絵本読み聞かせ」、家庭学習をサポートする「放課後ステップアップ事業」も展開し、成果が少しずつ表れてきている。  
これまでの取組の積み上げをさらに深化充実させ、よりわかりやすい指導を進め、基礎学力の確かな定着と言語力の充実を図り、最後まであきらめずに課題解決に取り組む力を伸ばしていきたい。さらに、無回答率が高いことより、読解力や思考力を養うため、今まで以上に、読書活動や言語活動を多様に取り入れた授業の充実を図っていきたい。  
また、家庭との連携も深め、家庭学習の拡充も図っていきたい。

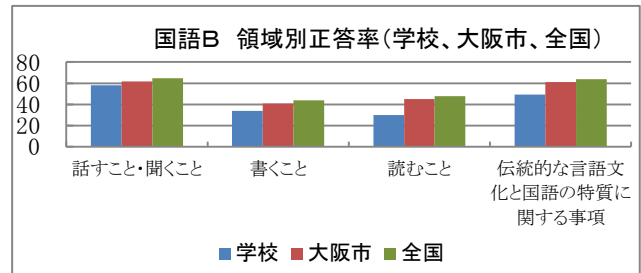
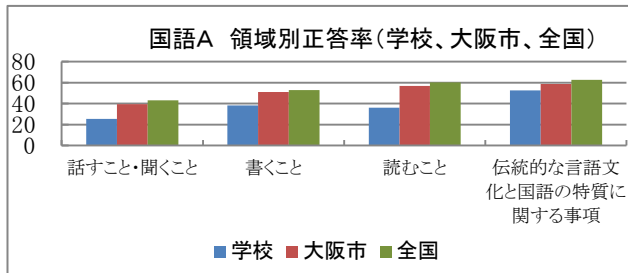
## 【国語】

### 結果の概要

A問題、B問題ともに市・全国平均を下回っている。特にA問題では「話すこと・聞くこと」、B問題では「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題がある。「国語の勉強は好きですか」の問いでは、「当てはまる・どちらかといえば」で大阪市平均を上回っているものの、ポイントは低い。

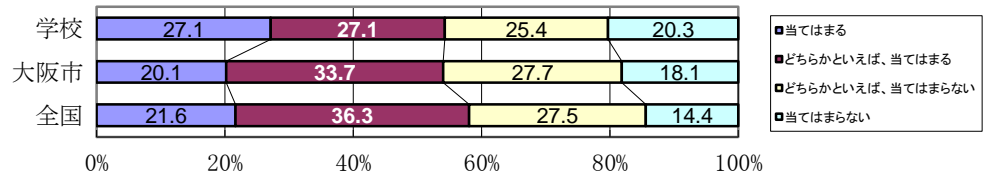
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	25.4	39.5	43.2
	書くこと	4	38.1	51.1	53.0
	読むこと	3	36.2	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	15	52.5	58.7	62.6

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	58.2	61.7	64.8
	書くこと	4	33.9	41.0	43.8
	読むこと	4	30.1	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	1	49.2	61.0	63.8

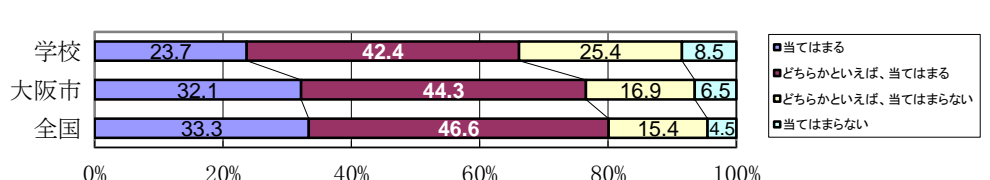


## 国語に関する「児童質問紙」

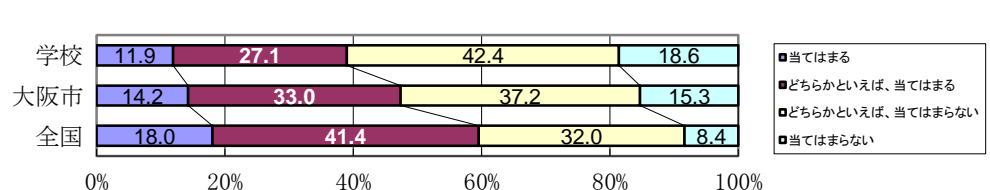
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



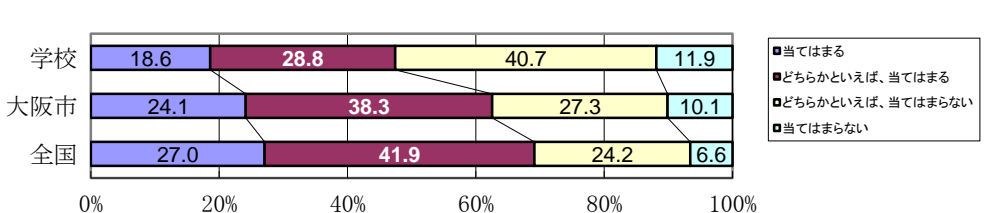
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



## 成果と課題

朝の絵本の読み聞かせ、図書室利用回数の拡大などを行った結果、読書に対する関心は高まっており、「国語の勉強が好き」と答える児童は多い。しかしながら、漢字や語彙を正しく理解し、習得するまでには至っていない。また、目的や意図に応じて、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことのできる応用力を身につける必要がある。

## 今後の取組

様々な読書活動を通して、国語好きの児童をさらに増やし、正答率のアップにつながる取組が必要である。また、基礎学力の定着を図るとともに、自分の考えを相手にうまく伝えられる力であるコミュニケーション能力を高めていく学習指導を進めていく必要がある。

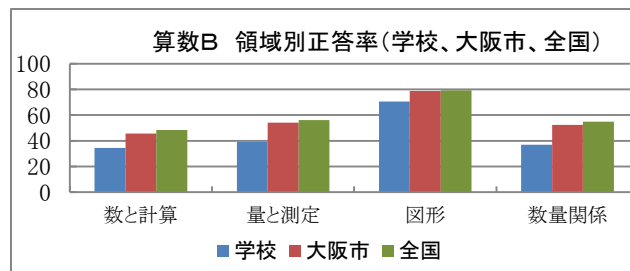
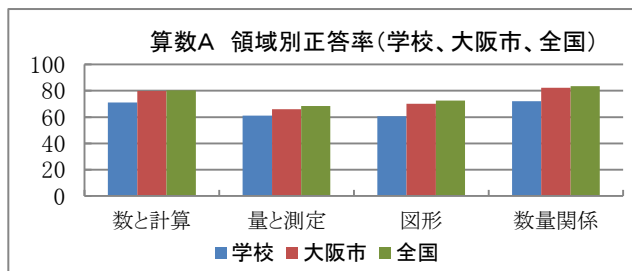
## 【算数】

### 結果の概要

A問題、B問題ともに市・全国平均を下回っている。特にA問題では「図形」、B問題では「量と測定」「数量関係」に課題がある。「算数の勉強が好きですか」の問いではポイントが低い、「内容が分かりますか」「普段の生活での活用」については大阪市平均を上回っている。

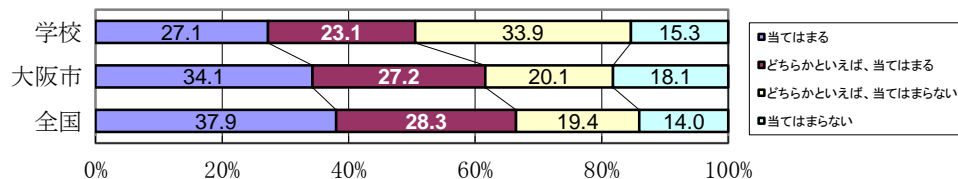
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	71.0	79.8	80.2
	量と測定	4	61.0	66.0	68.3
	図形	3	60.5	70.2	72.5
	数量関係	4	72.0	82.2	83.4

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	3	34.5	45.7	48.3
	量と測定	7	39.2	54.1	56.0
	図形	3	70.6	78.8	79.3
	数量関係	7	37.0	52.4	54.9

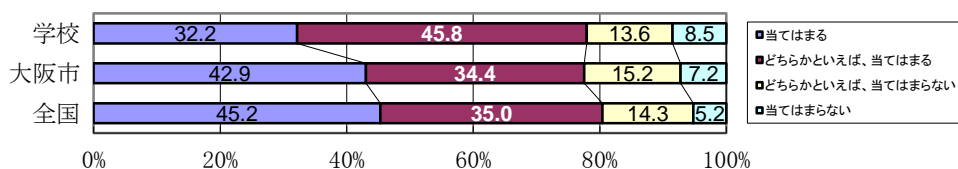


### 算数に関する「児童質問紙」

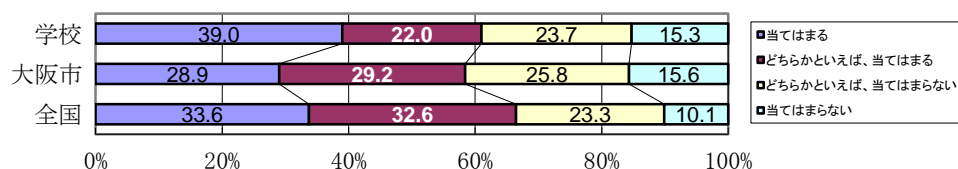
I 73 II 62 III 72
算数の勉強は好きですか



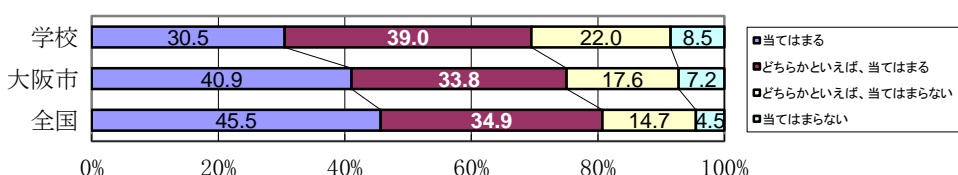
I 75 II 64 III 74
算数の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 77
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 80
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



### 成果と課題

「算数の授業の内容はよく分かりますか」の問いでは、「当てはまる・どちらかといえば」が78ポイントであるのかかわらず、小数の計算や公式の理解など基礎的学力の確実な定着に課題がある。また、場面と図を関連付けた数量の関係、図やグラフに示された情報を正しく読み取り筋道を立てて考えていくという応用力も苦手としている。

### 今後の取組

すべての児童にわかる楽しさを味わわせるために、教材・教具の工夫、習熟度別指導、家庭学習(宿題も含めた)の習慣化など、指導方法の見直しが必要である。また、国語と同様、普段の授業において考えや説明を発表させたり、みんなで話し合ったりする活動を多く取り入れていく必要がある。

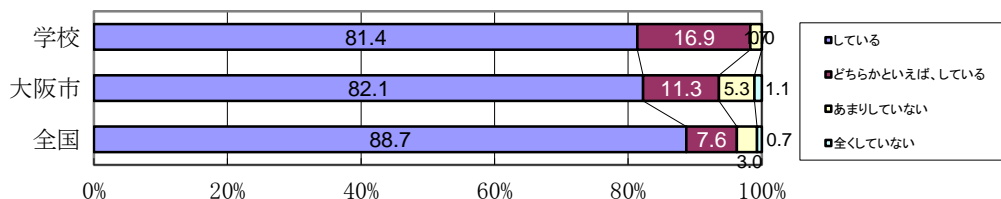
## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

### 結果の概要

基本的生活習慣については、ほとんどの児童がきちんと朝食を摂取している。また就寝・起床時刻も市・全国平均を上回っている。自尊感情については、「自分にはよいところがありますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」の質問において市・全国平均を下回っている。規範意識については、学校のきまりを守っていると回答した児童は市・全国平均を大きく上回っている。

質問 番号	質問事項
----------	------

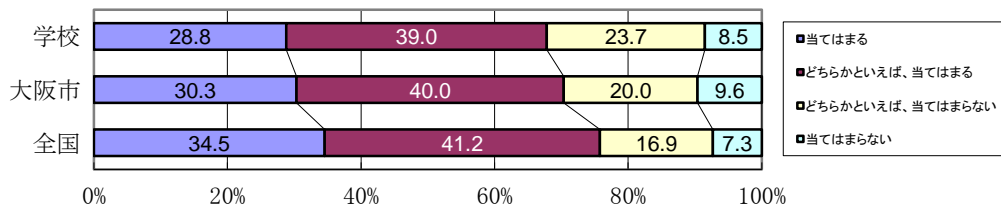
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



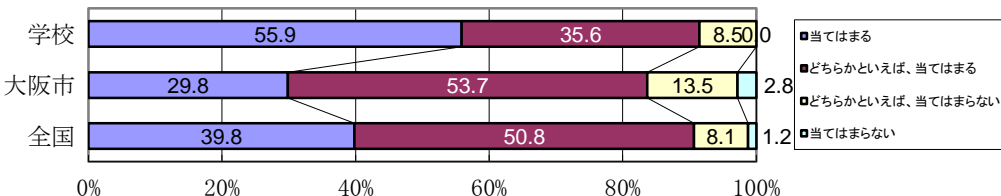
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 44
学校のきまりを守っていますか		



### 成果と課題

朝食をほぼ毎日、摂取することができている児童が多いのは、食育指導や保健だよりなどを通じて、児童のみならず、保護者にも啓発活動を行った成果と考えられる。就寝・起床時刻が毎日定まっている児童が多いが、午後11時以降の就寝や午前7時30分以降の起床の割合が多いのが課題である。また、規範意識についてのポイントは高かったが、全体としてのレベルを上げていきたい。

### 今後の取組

朝食の全員摂取、就寝・起床時間も含めて、今後も家庭と連携して基本的生活習慣の確立に向けて取り組んでいきたい。また、「将来の夢や目標を持っていますか」「将来なりたい職業はありますか」の質問では市・全国平均を下回っており、様々な職業観・将来展望を持てるようキャリア教育の充実が必要である。さらに、達成感・成就感や自己肯定感を育む体験活動などを多く取り入れていきたい。

## 家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

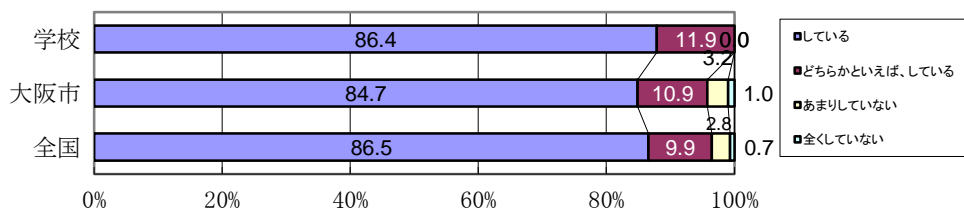
### 結果の概要

宿題をきちんとしている児童は「当てはまる・どちらかといえば」で100%である。しかしながら、家庭学習については宿題はやっているものの、自ら計画して復讐や予習を行っている児童が市・全国平均より下回っており自主学習の習慣が身につけていない。また、普段の授業においての話し合い活動が市・全国平均と比べ大きく下回っていた。読書好きな児童は市の平均を上回っており、全国平均ともほとんど差がない。

#### 質問 番号 質問事項

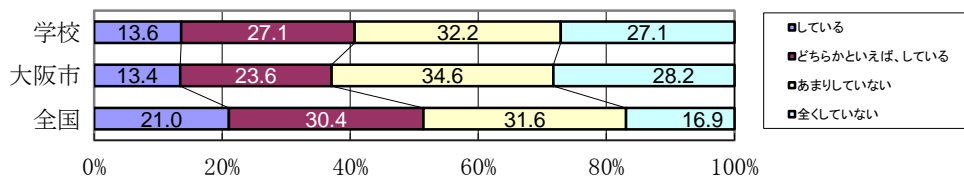
I 30 II 25 III 35

家で、学校の宿題をしていますか



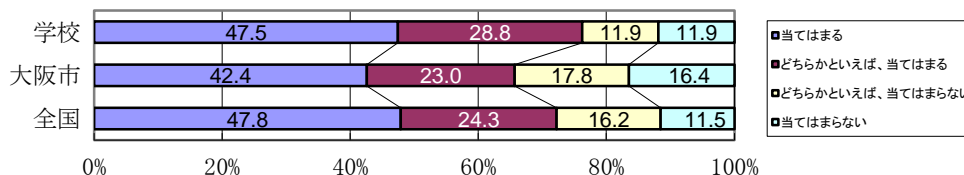
I 32 II 27 III 37

家で、学校の授業の復習をしていますか



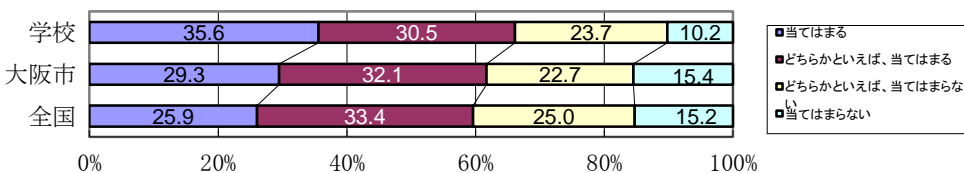
I 56 II 55 III 65

読書は好きですか



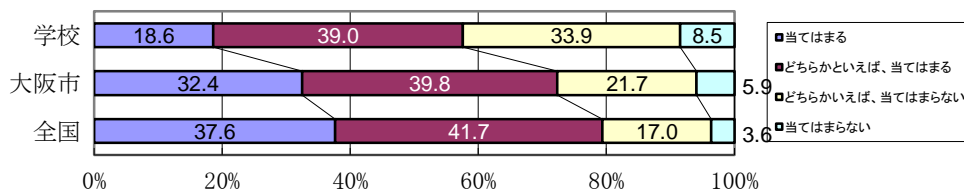
I 52 II 51 III 60

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



### 成果と課題

「放課後ステップアップ事業」や担任によるきめ細やかな宿題の点検などできちんと宿題はできている。朝の絵本読み聞かせや図書室の利用拡大などの取組により、読書好きの児童も増えてきている。しかし、普段の授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書くことは増えてきているが、グループ学習や話し合い活動、意見交換をするような授業形態を積極的に取り入れていく必要がある。

### 今後の取組

家庭における予習・復習などの自主学習については、担任と保護者が連携を密にし、協力体制を強化していく必要がある。読書については、今まで以上に図書館利用の拡大を行い、児童がより多く本と接する取組を充実させていく。また、国語の授業をベースに、全ての学習活動において、効果的に言語活動が取り入れられるよう、研修・研究を深めていく。